

関節ファシリテーション学会 四国支部

-四国交流会-

No.3

## 第 29 回 四国交流会



テーマ「4D 関節内運動学 ～歴史・基礎と臨床応用～」

講師：片岡 寿雄先生（岩倉病院 SJF 学会 愛知支部支部長）

平成 29 年 4 月 22 日（土）～23 日（日）

会場：アスティ徳島

今回は「4DCT で解き明かす関節内運動学」の著者である片岡寿雄先生をお招きしての四国交流会となりました。昨年の SJF 学会愛媛大会のシンポジストに引き続き、今回は講師として再度四国に上陸していただき熱い講義をしてくださいました。

関節内運動における軌道という概念の重要性、矢状面・水平面・前額面上での平面的な運動から脱却することが関節内運動学を治療に活かす第一歩であることを学びました。実技では、股関節の屈曲や外転にも軸回転が必ず伴うこと、頸椎椎間関節、胸椎椎間関節などの軌道を意識した技術により改善を経験することができました。また、軌道に沿って動くように操作する為には骨の止め方が非常に重要であること「止め方ですべてが決まる！」との熱いご指導もいただきました。

締めくくりには関節内運動学の歴史や再生医療の現状、学会でのシンポジウムでも話題になっていました Mechanotransduction の発現している画像を説明していただくなど、治療技術研修のみならず講義内容も非常に興味深い重要なことばかりであり充実した研修会となりました。

片岡先生、本当にありがとうございました。

## 第 30 回四国交流会



日時：平成 29 年 5 月 27 日（土）・28 日（日）

内容：「基本的動作介助法, SJF 技術, 症例検討」

講師：築山 尚司先生(岡山大学医学部附属病院 総合リハビリテーション部士長, SJF 学会地方理事)

会場：高知県立ふくし交流プラザ 研修室 A

高知県では 1 年半ぶりの開催となりましたが、築山先生をお招きし節目の 30 回目の四国交流会を開催しました。参加者は両日合わせて四国 4 県に加え、岡山、関西を含め総勢 58 名の参加を頂きました。

今回は四国から 1 題、岡山からも築山先生が実際に治療をされた場面を含め症例検討 2 題の発表がありました。症例を通して、少ない医学的情報からも患者の症候に現れている原因を探り、治療への結び付けの流れを学びました。また、築山先生の実際の患者治療では、1 回の治療における患者の変化を通して、改めて理学療法における治療技術のあるべき姿や素晴らしさを感じました。

新年度となり、新人や新入会の参加者もおりましたが、2 日間の研修を通して大いに刺激を受け、これからの臨床に向けても大変勉強になりました。

築山先生はじめ、補助講師の先生方ありがとうございました。

今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

## 第 31 回 四国交流会



日 時：平成 29 年 8 月 5 日（土）、6 日（日）

内 容：「症例検討」「基本的動作介助法」「SJF 技術」

講 師：築山 尚司先生(岡山大学医学部附属病院 総合リハビリテーション部士長)

会 場：香川労災病院 中央リハビリテーション部

今回、第 31 回四国交流会を香川県で開催しました。四国 4 県、岡山・広島・山口・福井・大阪・兵庫から総勢 75 名の参加をいただき、盛況のうちに終わることができました。

今回は、四国 4 県の先生方より症例発表（腰部脊柱管狭窄症(LCS)、小脳梗塞、変形性股関節症(THA 後)、運動ニューロン病疑い)を、また岡山の先生方から、内側半月板損傷(MMPRT)に関して、半月の構造と運動学、断裂形態、手術法、また症例提示もしていただきました。「構造と手術方法を知らないなら診てはいけない」・・・普段から医学的な知識を十分に持っているのか、非常に反省させられました。また、SJF 技術、歩行を中心とした基本的動作介助法、理学療法技術についても、ご丁寧に指導をいただきました。常に進化する技術・・・少しでも貪欲に吸収し、より効果的に患者を治療できるようになりたいと改めて思いました。

築山先生はじめ、補助講師の先生方、本当にありがとうございました。今後も引き続き、ご指導の程、よろしくお願い致します。

## 第 32 回 四国交流会



日 時：平成 29 年 11 月 4 日（土）、5 日（日）

内 容：「症例検討」「SJF 技術」

講 師：築山 尚司先生(岡山大学医学部附属病院 総合リハビリテーション部士長)

会 場：香川労災病院 中央リハビリテーション部

落ち葉の散り敷く季節となりました。天候にも恵まれ、香川県で、第 32 回四国交流会を開催しました。四国 4 県、岡山・広島・大阪から総勢 56 名の参加をいただきました。

今回は、4 例の症例検討を行い、大勢の先生方からご意見、ご指導をいただくことができました。患者の主訴や needs、理学所見、社会的背景等の様々な情報から目標を立て、私たちが今出来ることを考え、行うことの大切さを再確認することができました。

SJF 技術では、体幹を中心に、上肢や下肢の技術もご指導いただきました。目を向けるべきポイントを解りやすく、技術者のレベルに応じて熱心に教えていただきました。

補助講師の先生方にも、丁寧にわかりやすくご指導いただきました。とても充実した時間を過ごすことができました。

築山先生をはじめ、補助講師の先生方、本当にありがとうございました。今後も引き続き、ご指導の程、よろしくお願いいたします。